

二塚正裕 埼玉支部 副支部長

この研究を通じて、健康者じゃなくてもどんどん自転車に関わってもらえることはすごく嬉しいですね。

今回は埼玉支部の二塚正裕副支部長とともに、東洋大学の高橋良至准教授を訪ね、現在研究開発中の「リハビリテーション用自転車シミュレータ」について教えていただきました。二塚副支部長には訪問されての感想や、支部についてのお話などを伺っています。



競輪つてこんなこと やっつているんだ!!

震災の募金活動を機に結束力がさらに強くなりました。
埼玉のファンサービスはお客様と触れ合うこと。
ぜひ本場へ来てください!

—今回は脳卒中などのリハビリ用に開発中の自転車シミュレータについてお話を伺いましたが、どんな感想を持たれましたか？

「やっぱり自転車つて移動手段として一番手軽な乗り物だし、健康にもいいじゃないですか。人間工学的にもすごく身体に馴染みやすい道具だつて聞いたことありませんし、健康者じゃなくてもどんどんこの研究を通じて自転車に関わってもらえるっていうのはすごく嬉しいな。これからの日本を考えると高齢者が増えてくるわけだし、成人病を患う人も多くなる可能性を考えると、こういう高齢者や障害者に向けた補助事業はどんどんやっつてもらいたいと思います」

—自転車が多様な用途で幅広い人たちに活用してもらえることは、さらなる自転車の普及や啓蒙にも繋がりますね。

「そうですね。今回本当に良い機会になったし、先生からお話があればぜひお手伝いさせてもらいたいな。自分たちもただ走つてレースを見せるだけじゃなく、社会貢献もできるような、そういった質の高い競輪選手になりたいですよ」

—支部についてですが、埼玉は昨年から支部長に関靖夫選手が就任されるなど変化がありました。現在はどんな雰囲気ですか？

「関支部長は革命家とまで言ったら大げさかも知れませんが、良い意味でイケイケなんです。フットワークもすごく軽いですしね。自分も6年間副支部長やらせてもらっているんで、支部長には表に出てもらつて、自分が支部内のことはやりますよと、そういう形で役割分担しているんですけど、まあ良い方向に進んでいると思います。雰囲気もすごく良いんで

すよ。今年には震災があつて、募金活動を大宮駅と所沢駅でやっただけで、延べ100人を超える選手が参加して、大きな声で募金を呼びかけてくれて。あの時は本当に誇らしかったですし、それを機にさらに支部の結束力が強くなったという感じはしますね」

—これからの埼玉支部への希望や思いなどは？

「やっぱりうちはずっとファンサービスに力を入れてやっつてきて、すごくファンの方とも仲良しなんです。ファンの皆さんと接した分だけ顔を覚えてもらえて、僕なんかもこの競輪場行つても結構声かけてもらえますから。だから若い選手たちにもファンの皆さんと一緒に年数を重ねて育つて行けるような、そんなふうになつて欲しいですね」

—最後にファンの方々にメッセージをお願いします。

「お金をかけたファンサービスというのはなかなか多くはできないんですけど、やっぱり競輪場に来てくれる、本当に競輪が好きなお客様にとつては競輪選手が一番のアイドルだと思うんですよ。だから埼玉では少しでも選手が時間を作つてお客様の前で顔を出すようにしています。ぜひ本場に来ていただいて、生の選手の姿を見てもらえれば嬉しいです」